

<<号外>>

平成 25 年 3 月 19 日

TPP 通信 NO.7:

< TPP 交渉参加表明 !! >

安倍総理大臣は 15 日夕、TPP 交渉に参加することを正式に表明した。TPP 交渉参加を決めた理由については、「我が国経済では全体としてプラス効果が見込まれる」と説明、「我が国の安全保障にもアジア太平洋地域の安定にも大きく寄与する」と安全保障面の利点を指摘、「必ずルール作りをリードできる」と、交渉に自信を見せた。

*これまでの経緯

日本が国内の政治事情でもたつく中、交渉参加国は昨年 9 月に第 14 回交渉会合、12 月に第 15 回交渉会合、先日 13 日までの日程で第 16 回交渉会合を重ねてきた。今も各国の意見の隔たりは大きく、交渉は遅れ気味だと言われている。しかしながら、交渉が始まってからすでに 3 年が経過しており、日本がこれから参加しても主張をどこまで通せるかは不透明。安倍総理大臣は「今がラストチャンス。この機会を逃すと世界のルールづくりから取り残される」と訴え、TPP の交渉に参加することを正式に表明した。

*今後の展開

2 月に行われた日米首脳会談では、「(TPP は) あらかじめすべての関税撤廃を約束しない」との共同声明をまとめた。安倍総理大臣は、「聖域なき関税撤廃が前提条件でないことが確認できた」とし、党内の慎重派からも了承を取り付け参加表明にこぎつけた。今後は「聖域」確保のための条件闘争に入る。

「聖域」として関税の維持を目指す農産品の優先順位については、コメと砂糖を最重要分野と位置付け、麦、乳製品、牛肉といった 5 分野を念頭に置いている。5 分野すべて無傷はあり得ないとの見方も多く今後調整は難航しそうだ。また、党内の「TPP 参加の即時撤廃を求める会」などは、関税・自動車・保険・食の安全・ISD 条項など TPP 交渉での「守りぬく条件」を掲げ、政府が安易に妥協しないよう強く求めている。

*交渉参加国の反応

交渉参加 11 カ国は、先日 10 日間の日程で第 16 回交渉会合を終え、「税関手続きの簡素化や情報通信サービスなどの分野で大きな前進があった」と評価した。記者会見の内容からは、年内に大筋合意する目標は変えないと強調しつつも、難しい分野も残っていることを認めた。また交渉国には、日本がこれまでの議論を蒸し返すことへの警戒感が強い。シンガポールのウン交渉官は「新たに加わる国が交渉の勢いをそぐことがないことを望む」と、日本に対してくぎを刺した。一方、経済規模の大きい日本の意見を他の国は無視できないとの見方もある。日本の参加により、交渉が大幅に遅れるとの懸念もあるが、実際に日本が交渉に参加できるのは、米国議会のルール上早くても 6 月の承認、次回交渉会合が行われる 9 月からの予定だが、参加国は 7 月にも交渉会合を開くことを検討している。

*その他

先日の新聞広告には、一面を使った J A の意見広告がありました。「T P P は、あなたの生活のさまざまな分野に影響する問題です」と題し、「食の安全」・「医療」・「食料・農業」・「外国企業からの訴訟 (ISD 条項など)」・「自動車 (日米事前協議の対象)」について問題提起していました。

T P P で話し合われているのは、関税も含め全部で 2 1 分野。遅れて参加した日本が、すでに合意されたルールをひっくり返すのは難しい現状ではあるが、関税についてはまだ殆ど議論がされていない？との話。今後いろんな側面から“T P P”について注目してまいります。

以上